

ムーンショット型研究開発制度に係る 戦略推進会議の進め方等について

戦略推進会議について

設置趣旨

研究開発の戦略的な推進、研究開発成果の実用化の加速、関係府省や関係研究推進法人の間の効果的な連携・調整を図るため、**産学官から構成される戦略推進会議を設置。**

役割

- (1) 原則として、毎年度、研究推進法人から進捗等の報告を受け、ムーンショット目標の達成に向けて、全体俯瞰的な視点から、**プロジェクト構成の考え方、資金配分の方針等に関して承認・助言**を行う。
- (2) **研究開発成果の橋渡し、民間との連携、官民の役割分担を踏まえた適時の民間投資の呼び込みを含め、研究開発成果の社会実装に向けた方策を助言**するとともに、**研究開発成果の社会実装等に関する支援**を行う。また、**国際連携を促進するための助言**も行う。

戦略推進会議

助言等



報告

JST

(科学技術振興機構)

NEDO

(新エネルギー・産業技術総合開発機構)

BRAIN

(生物系特定産業技術研究支援センター)

AMED

(日本医療研究開発機構)

【構成員】

産学の有識者、関係府省

【助言等事項】

- ・プロジェクト構成の考え方
- ・資金配分方針
- ・社会実装等の方策
- ・国際連携促進等

【開催頻度】

年2～3回程度開催
 ※必要に応じて、参考資料1 2.(7)項に基づき書面開催の場合もある

今後の戦略推進会議等の進め方について

設置趣旨

- 研究開発の戦略的な推進、研究開発成果の実用化の加速、関係府省や関係研究推進法人の間の効果的な連携・調整を図るため、産学官から構成される戦略推進会議を設置。
- 戦略推進会議の助言等事項を深化させるために懇談会の開催について指針を一部改定。

戦略推進会議

【構成員等】

座長：内閣府副大臣（科学技術政策担当）
座長代理：内閣府大臣政務官（科学技術政策担当）
構成員：産学の有識者、関係府省等

【助言等事項】

- ・プロジェクト構成の考え方
- ・資金配分方針
- ・社会実装等の方策
- ・国際連携促進等

【開催頻度】

原則、年1回
 （年度末の進捗報告）

懇談会

【構成員】

産学の有識者、関係府省等

【検討等事項】

- ・プロジェクト構成の考え方
- ・資金配分方針
- ・社会実装等の方策
- ・国際連携促進等

【開催頻度】

原則、2～3回程度

助言等



報告



JST

（科学技術振興機構）

NEDO

（新エネルギー・産業技術総合開発機構）

BRAIN

（生物系特定産業技術研究支援センター）

AMED

（日本医療研究開発機構）

ムーンショット型研究開発制度の概要

- 超高齢化社会や地球温暖化問題など重要な社会課題に対し、人々を魅了する**野心的な目標（ムーンショット目標）**を国が設定し、挑戦的な研究を推進する制度。
- プロジェクトを統括する**PDの下に、国内外トップ研究者が集結。ポートフォリオ**を構築、**ステージゲート**で柔軟に見直すと共に、スピアウトも推奨。
- 総合科学技術・イノベーション会議(CSTI)、健康・医療戦略推進本部が目標を決定。産学官で構成する**戦略推進会議を設置**し、関係府省や研究推進法人が連携。

達成すべきムーンショット目標

- 目標1：2050年までに、人が身体、脳、空間、時間の制約から解放された社会を実現
- 目標2：2050年までに、超早期に疾患の予測・予防をすることができる社会を実現
- 目標3：2050年までに、AIとロボットの共進化により、自ら学習・行動し人と共生するロボットを実現
- 目標4：2050年までに、地球環境再生に向けた持続可能な資源循環を実現
- 目標5：2050年までに、未利用の生物機能等のフル活用により、地球規模でムリ・ムダのない持続的な食料供給産業を創出
- 目標6：2050年までに、経済・産業・安全保障を飛躍的に発展させる誤り耐性汎用量子コンピュータを実現
- 目標7：2040年までに、主要な疾患を予防・克服し100歳まで健康不安なく人生を楽しむためのサステナブルな医療・介護システムを実現
- 目標8：2050年までに、激甚化しつつある台風や豪雨を制御し極端風水害の脅威から解放された安全安心な社会を実現
- 目標9：2050年までに、こころの安らぎや活力を増大することで、精神的に豊かで躍動的な社会を実現
- 目標10：2050年までに、フュージョンエネルギーの多面的な活用により、地球環境と調和し、資源制約から解放された活力ある社会を実現

“Moonshot for Human Well-being”
(人々の幸福に向けたムーンショット型研究開発)

研究開発の推進体制



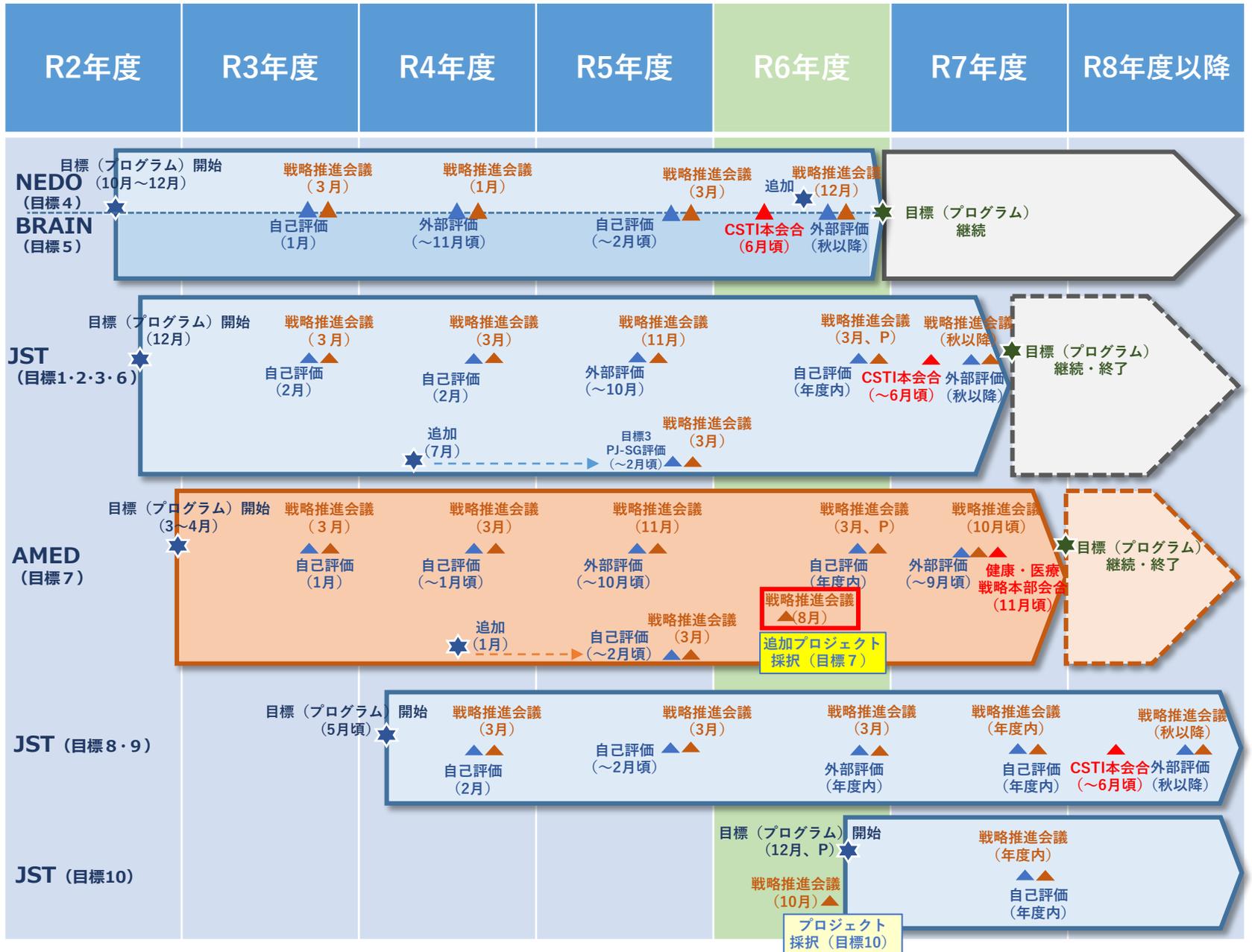
予算について(基金)

H30年度補正予算で1,000億円、R元年度補正予算で150億円を計上して基金を造成。令和3年度補正予算で800億円追加。令和5年度補正予算に2144億円追加。最長で10年間支援。

	文部科学省 JST	経済産業省 NEDO	農林水産省 BRAIN	内閣府(AMED室) AMED
H30年度2次補正	800億円	200億円	—	—
R元年度当初	16億円	4億円	—	—
R元年度補正	—	—	50億円	100億円
R2年度当初	16億円	4億円	1億円	2億円*
R3年度当初	16億円	4億円	1億円	2億円*
R3年度補正	680億円	40億円	30億円	50億円
R4年度当初	29.6億円	4.8億円	1.6億円	3億円*
R5年度当初	29.6億円	3.8億円	1.6億円	3億円*
R5年度補正	1522億円	237億円	20億円	365億円
R6年度当初	24.7億円	3.6億円	1億円	3.8億円*

※文科省、厚労省、経産省

戦略推進会議のスケジュールについて



目標7における研究開発の進め方 (追加プロジェクトの採択について)

○AMEDから説明

- ・ 目標7において、追加プロジェクト（PMの公募）の経緯やプロジェクトの概要等。

○AMEDに対して助言等

ムーンショット目標達成に向けて、全体俯瞰的な視点から、

- ・ 研究開発の進捗、今後の進め方に関する助言
- ・ 研究の成果の橋渡し、民間との連携等社会実装に向けた方策、国際連携の推進に関する助言
- ・ その他、気づきの点に関する助言

左記視点に基づき助言を実施し、AMEDは出された助言等を踏まえ、採択へ。

※戦略推進会議後に採択を決定し、研究開発計画の作り込みを経て11月から研究開始予定。

PMの採択基準（運用・評価指針の抜粋）

研究推進法人は、PDと協議の上、国内外からPMを公募し、原則複数のPMを採択する。この際には、総合的な視点から採択できるようにするため、外部有識者による評価体制を構築し、外部有識者の意見を聴くものとする。PMの採択にあたっては、以下の点に留意する。

<PM採択の視点>

- ・ 最先端の研究開発を推進するため、国内外の関連する研究者等の幅広い人的なネットワークや専門的な知識を有すること
- ・ 最適な研究開発体制を構築し、進捗状況等に応じて機動的に体制を見直す等のマネジメント力、リーダーシップ力を有すること
- ・ PMから提案されたプロジェクトの目標や内容（以下「提案内容」という。）が、従来のものと比べ、より大胆な発想に基づくものかつ挑戦的なものであり、将来の産業・社会に大きなインパクトが期待される革新的なものであること
- ・ 提案内容の困難度は高いが、目標達成に向けた技術的なシナリオ（成功の仮説）を明確に説明できるものであること
- ・ 提案内容が国内外を問わずトップレベルの研究開発力や知識、アイデアを結集するものであること 等